

新たな学校づくりプロジェクト 語り合いシリーズ 新たな学校づくりワーク②



ケーススタディー

「地域が給食の時間をサポートする」ためには、どんな具体的な動きが必要？

A・B・C 各グループのまとめ

Aグループです。まずは給食の時間をつくるためにどんな関わりができるかという話を広げてもらいました。時間をつくるというところでは、実際に給食の時間に地域の人に学校に来てもらって一緒に給食を取ってもらったりできないかな、というところで話がありました。あと関わるというところでは、食材というところで学校給食を地域の食材で支えていければという話がありましたあと、人が入ってもらうことで先生たちの方も時間をつくってもらえるようなことになればいいんじゃないか、といったような意見もありました。あとは関わりというところではちょっと小さくありますが、今日、子どもたちが何を食べているのかなみたいなのところを、村の皆さんに周知したりするようなことができればというところで、防災無線がいいのかちょっと分からないんですけど、今日はこんなものをみんな食べてますよ、という話もありました。

こういったところを実現していくためには、学校と地域あとボランティアさんというか、そこに入ってもらえる方をつないでいくところが重要になるだろうということで、そういうところをつなぐ力のある方ということで、給食コーディネーターさんですとか、地域コーディネーターさん、学校の関係のコーディネーターさん



ですとか、あと、食材の関係の地産地消に関するコーディネーターさんという方たちが、やっぱり重要になってくる、どうしても必要になってくる場所なんじゃないかというところで、その辺を中心に地域と学校をつないでいければ、というようなお話がありました。もうちょっと詳しく話ができればいいんですけど、全体的な話ですみませんが、Aグループの方は、以上となります。

Bグループの結論「未来の給食カフェテラス」夢の、一緒に食べちゃおうということで、結論はここです。一番最初に、先生たちの給食時間の時間削減というか、もうちょっと余裕を持たせたいね、という課題のところから話を展開して行って、最初はやっぱり給食の見守りが必要だねってところが入りました。先生たちに給食の時間をゆっくり食べてもらって、地元の人たちに給食の見守りを入れてもらって、それで子どもの給食を見てもらってボランティアで、というような話に入ったんですけども、だんだん話を進めていくうちに、給食の時間ってやっぱり短いねということになってきまして、今、小学校で準備から食べて片付けまでして、全部トータルで1時間という時間をうまく配分をして使っていると。それをなんとか食べる時間に重きを置きたいというふうに展開をしていくと、60分も全て食べられる時間にしたらどうだと、そうすると準備とかは全てボランティアの皆さんに任せると。最初は給食の食べるところの見守りっていうところが入ったんだけど、実はそうじゃなくて、最初の配膳も含めてボランティアの皆さんにやってもらったらどうなんだろう、という話をしていきました。

そうしたところ、それだったらもう最初から大学の学食みたいな、スタッフというか、調理場カフェテラス形式で。中にボランティアのスタッフさん、地元の方たちがいて、そこに子どもたちがお盆を持って並んで給食をもらっていくと。そうするとそこで自分が食べたい量をちょっと多めですとか少なめですというようなことも見えるし、そこで自分が除去食が必要な場合は除去食をもらっていくことで、自分で食べる、何を食べてもいいのか、何を食べちゃだめなのかっていうところを自分でも管理できるし、そこに給食の中に地元の人たちが入ると、そういうところも地元の人たちが知れて、お互いに地域で子どもを見守れるっていう、

そんな感じができるんじゃないかな、というような意見も出まして、最終的にはカフェテラス形式にして、高学年から上の子たちはカフェテラスで持っていくんだけど、低学年の方の皆さんは配膳方式でもいいね。なんていう話も出たりしました。やっぱりボランティアじゃなくて、給食に来てくれる人たちには、有償



でちゃんとしたお金を払って、その短い期間だけでもいいので来てもらって給食のお手伝いをしてもらおうと、そんな話。それから給食センターからちょっと飛躍をして、図書館やなんかも地域の人が行っても利用できるといいね、なんていう話がありまして、だから図書館にやっぱりカフェなんか併設したらいいよねっていう意見も出て、給食の時間はカフェテラスというか、給食として使うんだけど、給食の時間が終わってしまった夕方、そこにカフェテラスとしてちょっと軽く自習ができたりとか、Wi-Fiと電源を完備なんかして、ちょっとお茶できるようなスペースがあると図書館も含めて給食ランチルームを中心として、そこに人が集まることで図書館にも人が集まるし、学校帰ると中高生がカフェテラスに帰ってきて、帰りによってそこで授習をして帰るとか、中学生が学校帰りにそのスペースでちょっとお話をして時間を有効に使うとか、そんなスペースにも使えるんじゃないかな、というような意見がありました。

ちょっと、おまけとしてフードロスなんていうところもあって、給食センターで残ったものを例えば役場のラインみたいところで「今日給食が余ってますから、良かったら取りに来てください」とか、マルトシに持って行って惣菜として売るとか、そんなところもすると給食センターだけじゃなくてフードロスもなくなるんじゃないかな、と、そんな意見も飛躍していろいろ出ました。

やっぱり、新しい学校の一番のポイントはこの給食カフェテラスっていうところが人を集めていい学校になるんじゃないかな、という。そんな結論になりました。以上です。

Cグループお願いします。給食ですので一番の目的は、やっぱり一緒に食べる、会話を楽しむ、話しながら食べるっていう、地域の方とボランティアの方が一緒に給食を楽しむ中で交流を深めながらコミュニケーションを取っていくっていうのが一番の目的でしょうねっていうところはまず抑えました。

先生方の勤務を少し楽にしたいっていう発想で出てきた給食のことなんですけど、先生方にもやっぱり考えがありまして、給食指導はこうしたいとか、子どもたちにこういうふうに食べてほしいとか、給食、我々が取っている時間は給食指導の時間っていうふうに今までずっと指導をしてきましたので、そこを一切離れちゃうって



うのはどうなのかなっていう話もありまして、でも忙しいことは事実なので、生活の記

録見ながら給食を5分で食べながらっていう生活はやっぱりあまり良くないだろうということで、そこにボランティアの方が入るっていうことは、そこで、やっぱりこれだけは指導というか、一緒に食べていく中で勉強してほしいっていうふうなことは共有しておきたいっていうことです。そこがあって初めて先生方の立場とボランティア、保護者の立場で一緒のものが作り上げていかれるんじゃないかなっていう、そういう共有することが大事かなっていうふうに話が出ました。給食っていろんな問題が起きます、例えばアレルギーのこと、それから一人でゆっくり食べたいっていう子がいるとか、それから友達とワイワイ食べたいっていう子がいるとか、食に関わることで、いろんな状況があるっていうことを考えると、結論的に最後にこれでいこうねっていったのはさっきのBグループと一緒になんですけど、カフェテリア方式が一番いいんじゃないかっていうことで、「カフェテリア中川」。これさっき私がパツと書きちゃったんですけど、全然共有されていないんですけど、カフェテリア中川がそこにあって、そのカフェテリアの良さは先ほど話があったとおりです。

自分に合った量を含ただけずつもらって行って、自分の好きな場所に行って食べるっていうふうな方向はどうでしょうかっていうことだったんです。そうすると一人になっちゃう子がどうしてもね、今のクラスの現状を考えると、一人で食べて孤立してちゃみたいなのが必ず出てくるかなっていう心配も当然出てきます。逆に私も経験あるんですが、一人で食べたいっていう子、中学生ぐらいになると、僕はゆっくり一人で食べたいっていう子がいるのも事実なので、そこら辺の兼ね合いをきちんとしておくっていうか、個々への配慮をよっぽどしていかないと、カフェテリア方式、何でもいいねっていうふうには言えないのかなっていうようなことを思いました。そんな話題が出ました。それから、アレルギーのことについては、命に関わることであるので、よっぽど慎重にいかなくちゃいけないんですが、やっぱり専門的なところは栄養士さんが全部把握するので、栄養士さん中心にやるんですけど、カフェテリア方式みたいなものになると、例えばお盆のところにこの子はこういうものはダメですよっていうふうなものをきちんとわかるようにしていかないと、ボランティアの方が一緒に食べてる時に「これ食べて」と言ってやっちゃ絶対いけないとか、小さい子については食べちゃったりするので、そういう配慮もきちんとしてきた上でのカフェテリアは最高かなっていうふうな話になりました。

それから、給食費の関係なんですけど、やっぱりこれは村が持つべきでしょうということで、村で給食費は出してもらいたい、ボランティアの方の給食費はボランティア費用、ボランティアの代償として、というかね、そういう形で出していただくのがいいんじゃないかな、というふうなことです。

そうすると、どこがやっていくかっていうことになると、やっぱり給食に関わっては栄養士さんと綿密な打ち合わせを取りながらカフェテリア方式の詳細について詰めていく必要があるっていうこと。それから、指導内容の共有的なところになると、やっぱり

学校が主体になって、ボランティアの方と一緒に年度当初にこんなことをきちんとやっていきたいということをお話しておく必要があるかなってことです。

村は当然、お金を出していただくっていかというふうなことかなと思います。

で、いろいろ考えていった結果、個別のものとか、今日はボランティアが入るけど、2週間後のこの日はボランティアが入ってくるかどうかはわからないとか、流動的なことになると、おそらく栄養士さんとか給食を考えると大変なので、カレーの日がいいんじゃないか。カレーの日とか豚汁の日とかね、みんなで分け合って食べられるような日を中心に考えていくのがいいのかな。でないと、栄養士の先生が大変なことになるかなってような気はしています。で、カフェテリアの話を成功させていきましょうということで、給食の話は終わりました。

時間が少しあったので新しい学校について、不登校ですとか、居場所がないお子さんのことがやっぱり一番メインになってほしいってような意見がありまして、いろんな可能性を出していただきました。

ちょっとここで全部読んでると時間がかかるので、やっぱり居場所が一人一人ある学校をみんなの手で作っていききたいっていうふうなまとめです。詳しいところはぜひ読んでください。

今まで出てこなかった発想として、公民館が学校の中にある、寺小屋的な公民館が学校の中にある、中間教室とか悩みを打ち明けられる場所とかがありました。それから、シニア大学的なものも学校の中にあって、お年寄りの方も入ってこれるみたいなところがあって、とにかくいろんな居場所がある学校を作りたいねってということで、まとまりませんが、こんな話になりました。ありがとうございます。

【教育長】

今日はグループごとにすごく多様な意見だったのかなと思ひまして、B・Cは給食から入りながらも、図書館とか中間教室みたいなところ、プラスアルファで広がりがある学校がちょっとイメージできてきたかなという気がします。

多分、給食で地域の人が入ってるっていうのも大きな注目になっていて、オープンの学校って前回話したことともちょっと繋がっていくのかな、という気がしました。

Aグループは、それをまとめる仕組みも必要なんじゃないかということで、給食一つ取ってもいろんな人が関わらないと目指してる状態が成立できないというのも分かってきたので、核になる人とかまとめる人っていう、そういうところもAグループに出していただきましたけれども、必要なのではという気がしています。

こういうふうにはですね、みんなで考えると、本当に多様な視点でいろんなアイデアが生まれ、具体化するために何を考えていかないといけないのか明らかに考えられるので、新しい学校作りに向けてすごくいい時間があったかなと思っています。

【南信教育事務所 南波指導主事】

一緒に話したり皆さんの様子を見ている中で、中川村ってすごいなってというのは本当に率直な感想です。これだけのいろんな話し合いを、しかもすごく明るい雰囲気できていたかなと思います。これって、すごく、いい学校や村を作ることにつながる、本当に大事な要素かなと思いました。今日話させていただいて、本当に私は嬉しかったです。ありがとうございました。



ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。